

平成28年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係

記載者職・氏名 大原清志

新規・継続	継続	予算事業コード	4200
No 2101	補助金名	黒船祭執行会補助金	
根拠法			
交付要綱等名称 下田市負担金補助及交付金に関する規則			
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3	観光
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者	黒船祭執行会	事務局	観光交流課 観光戦略係
補助金の性質	☐ 運営費的補助 ☒ 活動費的補助 ☐ 施策的補助 ☐ 奨励的補助		
補助開始年度	9	補助終期設定	補助率 % 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
29	12,000,000	6,000,000	18,000,000
28	19,000,000	0	19,000,000
27	17,000,000	0	17,000,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
27	17,000,000	0	17,000,000
26	16,900,000	0	16,900,000
25	14,500,000	0	14,500,000
24	23,200,000	0	23,200,000
23	3,900,000	0	3,900,000

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	昭和9年に開港80周年事業として、開港に尽力された先人を顕彰するため、開始された。	
目的・内容 ②	開港の歴史を記念し、先駆者を顕彰し、併せて記念イベントを実施し、下田の発展に寄与するため。	10
国・県の補助の有無	無し(第74回から県補助打ち切り)	
公益性の所在 ①	日米交流の絆としての祭典と捉えているので、公益性については高評価している。	10
市が補助すべき理由 ②	日米交流の原点であり、下田市の3大イベントでもあるため、補助することが責務となっている。	10
代替手段との比較		
補助金の主な使途 ③	式典費 行事費	10
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法 ③	第78回は、第76回と同規模事業	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較 ③	問題なし	10
成果・費用対効果 ④	下田開港記念事業として、下田市が日米親善、国際交流の意義は大きい。宿泊客の増加など観光振興に成果を上げることが、大きな目的の一つであり、黒船祭に期待を寄せられることは大きい。PRの仕方について課題もある。「国際交流」と「観光」に、切り分けて考えるべきという意見もある。	10
同一団体への他の補助金の有無	なし	
廃止の見込み、廃止の影響	約1/3(かつては1/2)を市民等からの寄附に頼っているが、年々目減りしている。補助金の廃止は黒船祭の存続に係わる。	

○評価点

①公益性	10	②必要性	10	③適格性	10	④効果	10
------	----	------	----	------	----	-----	----

平成28年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係	観光交流課 観光戦略係	記載者職・氏名	大原清志
-------	-------------	---------	------

新規・継続	継続	予算事業コード	4200
No 2102	補助金名	下田市夏期海岸対策協議会補助金	
根拠法		下田市海水浴場に関する条例	
交付要綱等名称			
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3	観光
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者	下田市夏期海岸対策協議会	事務局	観光交流課 観光戦略係
補助金の性質	☐ 運営費的補助 ☒ 活動費的補助 ☐ 施策的補助 ☐ 奨励的補助		
補助開始年度	43	補助終期設定	補助率 % 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
29	7,000,000	5,000,000	12,000,000
28	11,000,000	0	11,000,000
27	11,000,000	0	11,000,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
27	11,000,000	0	11,000,000
26	12,000,000	0	12,000,000
25	10,000,000	0	10,000,000
24	11,400,000	0	11,400,000
23	12,084,000	0	12,084,000

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	観光振興のため 風紀の乱れ、出店者間でのトラブル頻発により、昭和43年より浜地を一括して占用し、支部が管理する現行の体制となった。		
目的・内容	②	海水浴場等による水難の未然防止及び水難者の捜索救護並びに海水浴場等の管理運営に必要な対策を実施することを目的とする。	10
国・県の補助の有無	無し		
公益性の所在	①	観光立市下田として、海水浴場の安全確保・環境向上のための役割が責務となっている。	10
市が補助すべき理由	②	夏期対支部の独自収入に頼り、費用の多くを賄っているが、行政の責務である以上、来遊客の安全性等を確保する使命があるため。	10
代替手段との比較			
補助金の主な使途	③	事業費（監視費、支部事業費、清掃業務費等）	10
当初目的の達成度			
予算要求額の算出根拠・方法	③	各事業費の積み上げで積算している。新たに海水浴場の開設時間告知看板等の新設を予定している。その他、世界一の海づくり基金を充当し、ライフセーバー設置期間の延長を予定。	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較	③	問題なし	10
成果・費用対効果	④	ライフセーバー等の活動により、水難事故などの防止に大きな役割を果たしている。	10
同一団体への他の補助金の有無	無し		
廃止の見込み、廃止の影響	下田市海水浴場に関する条例が市の責務であり、廃止した場合は、市で直営管理せざるを得ない。今後、各支部で市補助金以外の運営財源が確保できなり、直営運営となれば、多額の費用負担を強いられることが予想される。		

○評価点

①公益性	10	②必要性	10	③適格性	10	④効果	10
------	----	------	----	------	----	-----	----

平成28年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係	観光交流課 観光戦略係	記載者職・氏名	大原清志
-------	-------------	---------	------

新規・継続	継続	予算事業コード	4250
No 2103	補助金名	下田市観光協会補助金	
根拠法	一般社団法人		
交付要綱等名称	下田市負担金補助及交付金に関する規則		
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3	観光
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者	(一社)下田市観光協会	事務局	(一社)下田市観光協会
補助金の性質	☐ 運営費的補助 ☒ 活動費的補助 ☐ 施策的補助 ☐ 奨励的補助		
補助開始年度	補助終期設定	補助率	% 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
29	31,000,000	0	31,000,000
28	32,000,000	0	32,000,000
27	31,740,000	0	31,740,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
27	31,740,000	0	31,740,000
26	28,740,000	0	28,740,000
25	25,400,000	0	25,400,000
24	23,000,000	0	23,000,000
23	22,784,000	3,800,000	26,584,000

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	観光振興組織設立による	
目的・内容 ②	下田市観光協会の運営と活動を支援し、イベントの開催や各種宣伝を通じて観光客の誘客に努めるとともに観光の振興を図る	10
国・県の補助の有無	無し	
公益性の所在 ①	観光業務の担い手として、PR・誘客活動など行政とともに活動している	10
市が補助すべき理由 ②	精通性、機動性を考えると、絶対的な必要性がある	10
代替手段との比較		
補助金の主な使途 ③	宣伝事業費、事業費、運営費	10
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法 ③	例年、ゼロベースの積み上げによる積算をしてる。宣伝費等の増額が予定されるものの、人件費事務長分1名減。	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較 ③	問題なし	10
成果・費用対効果 ④	イベントの開催や誘客キャンペーン等の実施により、来遊客の減少に一定の歯止め効果をあげている。	10
同一団体への他の補助金の有無	無し	
廃止の見込み、廃止の影響	下田市のPR活動が停止し、各種イベントが実施できなくなることで、さらなる観光客が減少する悪循環が予想される。	

○評価点

①公益性	10	②必要性	10	③適格性	10	④効果	10
------	----	------	----	------	----	-----	----

平成28年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係	観光交流課 観光戦略係	記載者職・氏名	大原清志
-------	-------------	---------	------

新規・継続	継続	予算事業コード	4250
No 2105	補助金名	花火大会補助金	
根拠法			
交付要綱等名称		下田市負担金補助及交付金に関する規則	
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3	観光
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者	伊豆白浜観光協会 伝統河内花火保存会 夏季花 事務局 各団体		
補助金の性質	☐ 運営費的補助 ☒ 活動費的補助 ☐ 施策的補助 ☐ 奨励的補助		
補助開始年度	補助終期設定	補助率	% 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
29	900,000	0	900,000
28	900,000	0	900,000
27	900,000	0	900,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
27	900,000	0	900,000
26	985,000	0	985,000
25	985,000	0	985,000
24	362,000	623,000	985,000
23	1,135,000	0	1,135,000

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	観光振興のため	
目的・内容 ②	観光振興のため	9
国・県の補助の有無	無し	
公益性の所在 ①	地域振興のみならず、観光客誘客のための花火打ち上げということで、公益性はある	9
市が補助すべき理由 ②	実施主体の予算額減少により、補助金の比重が増加している 夏のイベントとして、集客につなげられる要素はであると認識している	8
代替手段との比較		
補助金の主な使途 ③	行事費(花火打ち上げ費用)	10
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法 ③	白浜海の祭典花火大会 50千円、下田納涼花火大会 715千円、河内手筒花火大会135千円	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較 ③	問題なし	10
成果・費用対効果 ④	市外からの来遊客の増加については未知数であるが、海水浴以外の+アルファーとしての花火大会による顧客満足度向上につなげられる。	8
同一団体への他の補助金の有無	無し	
廃止の見込み、廃止の影響	伝統行事の継承が難しくなる	

○評価点

①公益性	9	②必要性	8.5	③適格性	10	④効果	8
------	---	------	-----	------	----	-----	---

平成28年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係

記載者職・氏名 大原清志

新規・継続	継続	予算事業コード	4250
No 2106	補助金名	ボランティアガイド協会補助金	
根拠法		任意団体	
交付要綱等名称		下田市負担金補助及交付金に関する規則	
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3	観光
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者	ボランティアガイド協会補助金	事務局	下田ボランティアガイド協会
補助金の性質	☒ 運営費的補助 ☐ 活動費的補助 ☐ 施策的補助 ☐ 奨励的補助		
補助開始年度	補助終期設定	H 13	補助率 % 1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
29	90,000	0	90,000
28	90,000	0	90,000
27	90,000	0	90,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
27	90,000	0	90,000
26	90,000	0	90,000
25	90,000	0	90,000
24	180,000	0	180,000
23	180,000	0	180,000

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	下田市教育委員会「ガイド養成講座」修了者等により、平成13年度にボランティアガイド協会が設立されたことによる。	
目的・内容 ②	ボランティアガイド協会の活動支援・育成をし、観光客の受け入れ態勢の整備を図り、訪れる人とのふれあいや交流を促進する。	10
国・県の補助の有無	無し	
公益性の所在 ①	ボランティアとしての活動だが、観光に必要不可欠となっている。	10
市が補助すべき理由 ②	一部有料化が始まっており、独立運営ができるとされる。観光の最前線で活動している団体であり、今後もその役割は大きい	10
代替手段との比較		
補助金の主な使途 ③	研修費、事務費等	10
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法 ③	平成28年度予算と同額。	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較 ③	補助金以上の繰越金があるが、高齢化が進み新規会員が増えていない状況でガイド養成講座、研修費等の支援をしていく。H26より家賃支払い発生。	8
成果・費用対効果 ④	利用者には大変好評であり、下田の観光メニューの目玉の一つとなっているが、ガイド減少に伴い、案内数も減少している H23年2月 案内10万人達成 協会の運営・活動に影響あるが、18年度10月より予約客のみ有料化(一人100円)19年度からも同様に一部有料化で実施している。H26より値上がされた。	10
同一団体への他の補助金の有無	無し	
廃止の見込み、廃止の影響	自主財源確保により独自運営が可能であると判断している。	

○評価点

①公益性	10	②必要性	10	③適格性	9.33	④効果	10
------	----	------	----	------	------	-----	----

平成28年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係		記載者職・氏名 大原清志	
新規・継続	継続	予算事業コード	4250
No 2107	補助金名 伊豆下田地区教育旅行協議会補助金		
根拠法			
交付要綱等名称		下田市負担金及交付金に関する規則	
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3	観光
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者 伊豆下田地区教育旅行協議会		事務局 下田市 観光交流課	
補助金の性質 ☒ 運営費的補助 ☐ 活動費的補助 ☐ 施策的補助 ☐ 奨励的補助			
補助開始年度	補助終期設定	補助率 %	1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
29	35,000	0	35,000
28	35,000	0	35,000
27	35,000	0	35,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
27	35,000	0	35,000
26	40,000	0	40,000
25	40,000	0	40,000
24	40,000	0	40,000
23	40,000	0	40,000

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	須崎地区で定着していた体験型修学旅行を他地区(田牛・白浜・外浦)へ広めるため	
目的・内容 ②	小中学生の修学旅行及び体験学習等の教育旅行誘致推進	10
国・県の補助の有無	終了 国 2,185千円 食と地域の交流促進対策交付金事業(H23,H24) 終了 県 180千円 子ども農山漁村交流プロジェクト外支援事業(H23) ※直接伊豆下田地区教育旅行協議会へ補助	
公益性の所在 ①	現在4地区の協議会であるが、さらに広域組織になれば公益性はあがる	10
市が補助すべき理由 ②	共同宣伝事業や、大きな団体の受入に備えるためにも、協議会の必要性は高い	10
代替手段との比較		
補助金の主な使途 ③	通年はHP維持管理費に当てている。国、県の補助は、それぞれ特定事業に充てた(H23、H24)	10
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法 ③	最低限のホームページ経費分を計上している。	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較 ③	問題なし	10
成果・費用対効果 ④	市全体で取り組んでいるという姿勢が他地域に安心感を与え、中京地区及び神奈川地区の教育旅行生を増やしてきた。 また静岡県東部地域においても誘致活動を行い、近隣地域からの受け入れも増加している。	10
同一団体への他の補助金の有無	無し	
廃止の見込み、廃止の影響	下田市全体として、キャラバン等のPR活動が出来なくなり、旅行数の減少が予想される。	

○評価点

①公益性	10	②必要性	10	③適格性	10	④効果	10
------	----	------	----	------	----	-----	----

平成28年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係	観光交流課 観光戦略係	記載者職・氏名	大原清志
-------	-------------	---------	------

新規・継続		継続		予算事業コード		4253	
No 2108		補助金名		自然体験活動推進協議会補助金			
根拠法							
交付要綱等名称		下田市負担金及交付金に関する規則					
総合計画の位置付け		施策体系	3-1-3 観光				
		基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。				
業務作戦書の位置付け		戦略の核					
		2桁コード					
補助対象者		下田市自然体験活動推進協議会			事務局	観光交流課 観光戦略係	
補助金の性質		☐ 運営費的補助 ☒ 活動費的補助 ☐ 施策的補助 ☐ 奨励的補助					
補助開始年度		補助終期設定		補助率	%	1件当たり補助上限額	円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
29	0	4,000,000	4,000,000
28	4,000,000	0	4,000,000
27	500,000	6,300,000	6,800,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
27	3,300,000	2,700,000	6,000,000
26	900,000	0	900,000
25	300,000	0	300,000
24	300,000	0	300,000
23	250,000	0	250,000

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	一季集中型の観光から四季型・通年型観光地への転換を目指し、体験型観光メニューの充実を図るため。また、開港150周年記念事業より継続している。	
目的・内容 ②	自然を活かした観光の掘り起こし。そして自然をテーマとしたガイド組織を設立し、案内を通して訪れる人とのふれあいや交流を促進するため。平成25年度は、「世界一の海づくりプロジェクト」事業推進に合わせ、大幅な組織改変を予定している。また、イベント事業としてシートゥーサミット実施を目指す。	10
国・県の補助の有無	都市農村共生・対流交付金事業(国庫補助) H25 4,100千円 H26 4,529千円、H27市町村振興協会補助金 3,500千円、H27地域住民生活等緊急支援事業分(国補助金) 2,800千円	
公益性の所在 ①	観光誘致を柱として、地域の子どもの自然体験教育や自然環境保護にも関連している。また、下田市観光まちづくり推進計画に沿った事業を実施予定であるため、十分な公益性がある。	10
市が補助すべき理由 ②	協議会があることにより、それぞれのボランティア的な個別の活動を連携させることは必要であり、協議会の活動が教育旅行の誘致、伊豆半島ジオパーク構想の推進に繋がっていく。観光基本計画に掲げる「世界一の海づくり事業」プロジェクトの実施主体であることから補助は必要	10
代替手段との比較		
補助金の主な使途 ③	モンベル登録、自然講座、SUP講座、モニターツアー、ジオ関係、海議開催等。	10
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法 ③	平成28年度一般財源充当額と同様。世界一の海づくり基金を充当。	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較 ③	問題なし	10
成果・費用対効果 ④	本活動により育成した指導者が教育旅行の体験指導を行うなど、他の観光事業にも関わりを持つようになってきている。ニューツーリズム、グリーンツーリズム等自然体験型の観光の需要は今後益々増えていく。	10
同一団体への他の補助金の有無	なし	
廃止の見込み、廃止の影響	多様化する観光需要に対応が出来ず、下田の特性を活かしたまちづくりが困難となる。 ※現在、枠組み等の再構築を検討中	

○評価点

①公益性	10
------	----

②必要性	10
------	----

③適格性	10
------	----

④効果	10
-----	----

平成28年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係		記載者職・氏名 大原清志	
新規・継続	継続	予算事業コード	4350
No 2109	補助金名 海岸砂防柵設置事業補助金		
根拠法		下田市海水浴場整備事業補助金交付要綱	
交付要綱等名称		下田市海水浴場整備事業補助金交付要綱	
総合計画の位置付け	施策体系	4-3-1 防災	
	基本目標	防災意識が高く、災害に強いまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者 長田区 原田区 外浦区		事務局 下田市 観光交流課	
補助金の性質 ☒ 運営費的補助 ☒ 活動費的補助 ☐ 施策的補助 ☐ 奨励的補助			
補助開始年度	補助終期設定	補助率 %	1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
29	415,000	0	415,000
28	415,000	0	415,000
27	415,000	0	415,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
27	255,000	0	255,000
26	274,000	0	274,000
25	120,000	0	120,000
24	120,000	0	120,000
23	120,000	0	120,000

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	砂飛散のため、道路、家屋等に被害が出ていた。そのため地域住民が中心となり対策を施し、市としてもその費用の一部を負担したことから始まる	
目的・内容 ②	自然環境の保護・保全	9
国・県の補助の有無	白浜大浜の砂防柵設置については資材の現物支給あり	
公益性の所在 ①	道路への飛砂を減少させる目的があり、公益上役割は大きい	10
市が補助すべき理由 ②	飛砂防止、自然環境の保護・保全、安全対策上必要である	10
代替手段との比較		
補助金の主な使途 ③	資材費、機械借上げ料	10
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法 ③	415千円（長田50千円、原田70千円、外浦295千円） ※外浦については県よりの資材提供なく、地元負担を強いられている。	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較 ③	問題なし	10
成果・費用対効果 ④	砂の飛散防止、自然環境の保護 ※長田区はH23から飛散がなかったため、事業実施を見送っている。	10
同一団体への他の補助金の有無		
廃止の見込み、廃止の影響	飛砂防止に大きな影響が出る。特に、白浜大浜に沿う国道135号への影響は計り知れない。	

○評価点

①公益性	10	②必要性	9.5	③適格性	10	④効果	10
------	----	------	-----	------	----	-----	----

平成28年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係		記載者職・氏名 大原清志	
新規・継続	継続	予算事業コード	4250
No 2110	補助金名 まちおこしカジキサポートクラブ補助金		
根拠法		任意団体	
交付要綱等名称		下田市負担金補助及交付金に関する規則	
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3 観光	
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者 まちおこしカジキサポートクラブ		事務局 まちおこしサポートクラブ	
補助金の性質 ☒ 運営費の補助 ☐ 活動費の補助 ☐ 施策的補助 ☐ 奨励的補助			
補助開始年度	補助終期設定	補助率 %	1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
29	700,000	0	700,000
28	700,000	0	700,000
27	700,000	0	700,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
27	700,000	0	700,000
26	700,000	0	700,000
25	700,000	0	700,000
24	700,000	0	700,000
23	700,000	0	700,000

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	「H20国際カジキ釣り30回記念大会」より、注目度や事業規模等も大きくなっていることから、平成20年度から本補助が開始された。	
目的・内容 ②	「国際カジキ釣り大会」は世界最大級のカジキ釣り大会であり、下田の夏のイベントとして定着している。H28は38回目の大会となる。事業の成功を収めることにより、十分なPR効果が期待できることから補助を行うものである。カジキ釣り大会とマリンフェスタを同時開催している。	10
国・県の補助の有無	無し	
公益性の所在 ①	カジキサポートクラブは本大会の市民主導によるサポート団体であり、官民協働事業の一翼を担っている	10
市が補助すべき理由 ②	本補助金は経済波及効果が大きく事業を盛大かつ円滑に実施するため必要である。	10
代替手段との比較	なし	
補助金の主な使途 ③	運営費	10
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法 ③	前年度同額(700千円)	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較 ③	問題無し	10
成果・費用対効果 ④	年々参加艇が増加しており、大会規模が大きくなっている。 参加艇数 H20(30回記念)111艇 H21 92艇 H22 102艇 H23 93艇 H24 93艇 H25 101艇	10
同一団体への他の補助金の有無		
廃止の見込み、廃止の影響	国際カジキ釣り大会は他市町からの誘致オファーがあり補助金を廃止すると、大会が他市町へ移る可能性が大である。カジキ釣り大会と同時開催している夏のイベントとして定着しているマリンフェスタの開催も危ぶまれる。	

○評価点

①公益性	10	②必要性	10	③適格性	10	④効果	10
------	----	------	----	------	----	-----	----

平成28年度 補助金交付事業 担当課評価調書

担当課・係 観光交流課 観光戦略係		記載者職・氏名 大原清志	
新規・継続	継続	予算事業コード	4253
No 2113	補助金名 伊豆下田サマーフェスタ実行委員会補助金		
根拠法			
交付要綱等名称 下田市負担金補助及び交付金に関する規則			
総合計画の位置付け	施策体系	3-1-3 観光	
	基本目標	自然や歴史をはじめとする下田の魅力を活かし、多くの人が楽しめるまちを目指します。	
業務作戦書の位置付け	戦略の核		
	2桁コード		
補助対象者 伊豆下田サマーフェスタ実行委員会		事務局 下田商工会議所	
補助金の性質 ☒ 運営費的補助 ☐ 活動費的補助 ☐ 施策的補助 ☐ 奨励的補助			
補助開始年度 24	補助終期設定	補助率 %	1件当たり補助上限額 円

○当初予算額

年度	一般財源	特定財源	予算総額
29	0	0	0
28	900,000	0	900,000
27	900,000	0	900,000

○過去5年の決算額

年度	一般財源	特定財源	決算総額
27	900,000	0	900,000
26	1,000,000	0	1,000,000
25	1,000,000	0	1,000,000
24	300,000	0	300,000
23			

○チェック項目と評価内容

事業開始のきっかけ	東日本大震災による夏の入込客を回復させる目的で、夏に個々で実施していた各団体が終結して、「伊豆下田サマーフェスタ実行委員会」が平成23年度後半に設立された。	
目的・内容 ②	夏の賑わいを取り戻し、地域活性化と誘客を図る。	10
国・県の補助の有無	無し	
公益性の所在 ①	海水浴客に頼らない夏に行う事業としての公益性は高い	10
市が補助すべき理由 ②	地域活性化に寄与する新たな官民一体で取組む事業として必要である。	10
代替手段との比較		
補助金の主な使途 ③	H24 新規2事業への補助 H25～ 広報宣伝経費への補助	10
当初目的の達成度		
予算要求額の算出根拠・方法 ③	前年度同額補助 事業費の約1/3	10
繰越額・積立額と補助金交付額との比較 ③	問題なし	10
成果・費用対効果 ④	JR・JTB等旅行エージェントより高評価を頂いている	10
同一団体への他の補助金の有無	なし	
廃止の見込み、廃止の影響	夏の画一的PRができなくなり、個々のイベント組織のPR費用分が増加となる	

○評価点

①公益性	10	②必要性	10	③適格性	10	④効果	10
------	----	------	----	------	----	-----	----